



平成 20 年 7 月 14 日

各 位

会 社 名	株 式 会 社 免 疫 生 物 研 究 所 (コード番号：4570)
本店所在地	群 馬 県 高 崎 市 あ ら 町 5 番 地 1
代 表 者	代 表 取 締 役 社 長 清 藤 勉
問 合 せ 先	経 営 企 画 室 長 木 下 憲 明
電 話 番 号	027-310-8040 (代表)
U R L	<a href="http://www.ibl-japan.co.jp">http://www.ibl-japan.co.jp</a>

## 新規アトピー性皮膚炎モデル動物の 販売承認および販売開始のお知らせ

この度、株式会社免疫生物研究所（本社：群馬県高崎市、社長：清藤 勉、以下「免疫生物研究所」）は、農林水産省から新規アトピー性皮膚炎モデルの販売承認を取得し、平成20年8月1日から販売を開始いたしますので、ここにお知らせいたします。

この疾患モデルを供給することによって、原因不明のアトピー性皮膚炎に対する医薬品の研究開発の発展に役立てるものと考えております。

### 【概要】

現在、アトピー性皮膚炎モデルとしては、NC マウスと呼ばれるマウスが広く使用されております。しかし、NC マウスは有毛マウスであり、医薬品候補品の有効性を確かめる実験では、アトピー性皮膚炎の状態を観察するために試験前に剃毛する必要があります。このように剃毛による刺激によって皮膚炎がおこり、実験の精度が高くないという問題が生じておりました。

今回承認された NC ヘアレスマウス（製品名）は、従来使用されていた NC マウスを無毛化したマウスであり、研究者の剃毛労力が低減することは勿論のこと、剃毛する必要がないので、実験の精度を高めることが期待できます。

NC ヘアレスマウスは、財団法人東京都医学研究機構 東京都臨床医学総合研究所の米川博通博士・高田豊行博士（現、情報・システム研究機構 新領域融合研究センター）ら、および国立大学法人 奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科の河野憲二教授らによって作製されました。そして、平成 17 年 12 月に、免疫生物研究所が国内の独占的な飼育、繁殖、供給、交配および販売の実施権の許諾を受けております。

尚、本モデルには、既に複数の国内製薬企業から引き合いをいただいております。

### 【販売価格】

2 万円/匹

### 【国内予想ピーク時売上げ】

平成 25 年度（五年後） 2 億円

## 用語説明

アトピー性皮膚炎：アトピー性皮膚炎は病因不明のアレルギー疾患のひとつで、強い痒みを伴う湿疹が慢性・再発性に継続する病気である。一般的にはステロイドが使用されているが、副作用の点からも有効な薬剤の開発が望まれている。

NC マウス：アトピー性皮膚炎の自然発症マウス。ヒトのアトピー性皮膚炎に最も近いモデルと言われており、アトピー性皮膚炎に対する医薬品の開発に利用されている。

## 株式会社免疫生物研究所について

1982年に、医薬品、医薬部外品および研究用試薬の研究、製造、販売を目的に設立されました。抗体を中心とする免疫学の研究成果を基に、研究用試薬の供給および医薬シーズのライセンス事業をおこなっております。また、疾患モデル動物のリーディングブリーダーである米国タコニック社の日本代理店でもあります。従業員は、67名であります。

## 財団法人東京都医学研究機構 東京都臨床医学総合研究所(臨床研)について

臨床研は、がん・感染症をはじめとする様々な重篤疾病の発症機構を解明し、それらの予防・治療に貢献するための研究所として約30年前に設立され、神経研・精神研と共に東京都医学研究機構に所属しています。現在、臨床研では、都民の健康を守るために直ちに役に立つ実用研究(C型肝炎の治療法やがんの早期診断法の開発)と共に、世界的レベルにある基礎研究(タンパク質の品質管理の破綻、細胞分裂の時に起こるDNA複製などの機構解明)など、広汎でかつ高い独創性を持つ研究が行われています。今回の成果をご紹介する疾患モデル開発センターは、マウス遺伝学を基軸に様々なヒトの病気の原因を解明する研究に取り組んでいます。

## 国立大学法人 奈良先端科学技術大学院大学について

奈良先端科学技術大学院大学は、学部を置かない国立の大学院大学として、最先端の研究を推進するとともに、その成果に基づく高度な教育により人材を養成し、もって科学技術の進歩と社会の発展に寄与することを目的として、平成3年10月1日(学生受入れ開始:平成5年4月)に設置されました。

現在、3研究科(情報科学・バイオサイエンス・物質創成科学)を設置し、多様な学生を受け入れています。また、学内共同教育研究施設には、先端科学技術研究調査センター、情報科学センター、遺伝子教育研究センター、物質科学教育研究センター及び附属図書館(電子図書館)を有しています。

以上